

人と人の絆を深める

# 交流会の手引き



公益  
社団

**国際厚生事業団**

JICWELS



# 目次

■ はじめに	1
■ 交流会についてアンケート結果	2
■ 交流会事例	
〈外国人を対象とした交流会〉	
① 愛知商工連盟協同組合・技能実習監理団体連合・国際パートナーシップセンター	4
大使館を中心とした協働の取り組み 在日カンボジア人の集い	
② かながわ国際交流財団	6
外国人の生活力向上とコミュニティの連携促進！外国人コミュニティとの意見交換会	
③ とよなか国際交流協会	8
やりたいことをしよう！にちようがちゃがちゃだん（日本語交流活動事業）	
④ フレンドリージャパン協同組合	10
一緒に食べてリフレッシュ！青空ランチ会	
⑤ 北海道国際交流・協力総合センター	12
地域特有の文化に触れよう！留学生ふれあい交流 in いぶり	
〈外国人と地域住民の交流を目的とした交流会〉	
⑥ 愛媛県国際交流協会・松山国際交流協会	14
みんなで創り上げる！地球人まつり in まつやま・えひめ	
⑦ しまね国際センター	16
外国人ママ活躍！アンテナサロン in 浜田～世界の絵本でおはなし会～	
⑧ 宮城県国際化協会	18
2017年度石巻に吹くベトナムの風～ベトナム人技能実習生との交流会～	
〈外国人介護人材を対象とした交流会〉	
⑨ 千葉県外国人介護人材支援センター	20
介護の魅力発信！留学生と外国人介護職員のための交流会	
⑩ 栃木県国際交流協会	22
介護の仕事のための日本語セミナー 動画で学ぶ介護の言葉	
⑪ 国際厚生事業団	24
オンラインで各地とつながる！介護現場で働く・介護を学ぶ人のための交流会 2020	
■ 交流会を企画するときのポイント	27

## はじめに

近年、様々な在留資格で来日し、日本全国、各地域で生活する外国人が増えてきました。彼らは日本で働き、地域の一住民として暮らしています。日本社会は外国人を受け入れ、外国人とともに生きる多文化共生社会へと急速に進んでいると言えるでしょう。

外国人が、地域に定着し、安心して日本で暮らせるように、地域に関わるきっかけとして交流会のような「場づくり」が今後ますます必要になってくると思います。外国人同士や、外国人と日本人が交流を通して関係を深めていくことは大事なことです。

国際厚生事業団では、厚生労働省から受託した「2019年度・2020年度外国人介護人材相談支援事業」の一環として、2019年度と2020年度には介護現場で働く、または介護を学ぶ外国人を主な対象者とした交流会を行いました。交流会の参加者からは「交流会に参加してよかった」という肯定的な意見が多く聞かれ、このような交流会を日本全国で開催できるのが望ましいと考えています。

そこで、交流会の実施を検討するにあたって、具体的なイメージが描けるように、各地域の国際交流団体や外国人の支援団体などにコンタクトをとり、実績を持つ団体の活動例を取り上げ事例としてまとめました。加えて、国際交流会や外国人介護人材を対象とした交流会などの実施状況に関する調査もしており、調査結果は次のページで取り上げています。

この事例集は、主に外国人を受け入れたり、外国人の生活支援などを行う団体向けにまとめたものです。このため、介護に関する内容のみならず、広義に捉え、様々な形態で行われている交流会を取り上げています。交流会の実施に至ったきっかけや、準備期間や準備内容などできるだけ詳細に載せています。また、2020年度に交流会を行った各事例では、新型コロナウイルス感染症対策についても具体的に挙げています。コロナ禍での実施において役に立つと思われる。

この事例集を読むことで、交流会について具体的に考えるきっかけとなったり、事例に挙げた交流会をもとに、交流会の対象となる参加者や企画内容などに応じて、皆さんが交流会をアレンジするのに活用できると思います。

さらに、今回の事例集作成時に、協力団体とのやり取りの中で見えてきたものを、交流会を企画するときのポイントとして載せました。

最後になりますが、この事例集がこれから介護現場で働く外国人のための交流会の実施に興味がある人、交流会をやってみようと考えている人にとって、役に立てば幸いです。

# 交流会についてアンケート結果

**概要** 全国の各団体の交流会の実施に関する実態調査を行った。

**対象** 国際交流団体、社会福祉協議会、技能実習生を受け入れている監理団体

**方法** WEBにより実施

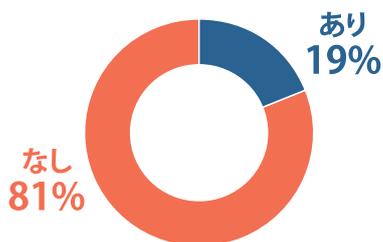
**実施期間** 2020年7月13日(月)～2020年8月7日(金)

**有効回答率** 99 団体

## 結果

**Q1.** 国際交流会を実施したことがありますか。

※「国際交流会」とは、地域に暮らす在住外国人全般を主な対象としたイベントを指します。

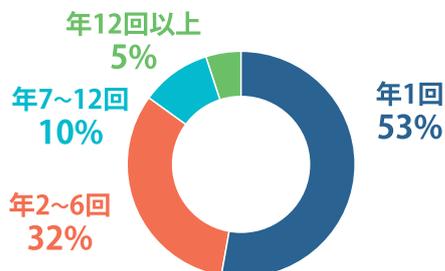


国際交流会を実施したことが『あり』の場合

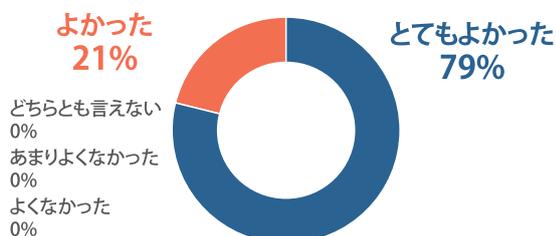
**Q1-1.** どんな交流会を開催しましたか。

- **グローバルコミュニティカフェ**  
ゲストスピーカー（英語話者）を囲んで、地域住民とテーマに沿った意見交換
- **ながさき国際協力・交流フェスティバル**  
県内在住の外国人と日本人の文化体験等を通じた交流
- **結つきみ交流会**  
県内民間団体が主催する交流イベントの支援協力
- **日本語交流会**  
在住外国人が日本での生活について意見を述べたり自国の歌や音楽演奏を行う交流会
- **日本文化を体験**  
着付やお茶の体験。地元の歴史史跡訪問。方言講座など

**Q1-2.** 実施回数

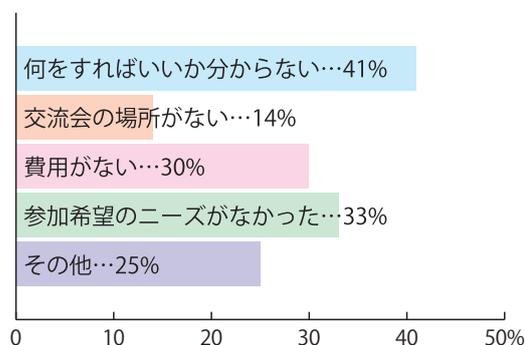


**Q1-3.** 国際交流会をしてよかったですか。



国際交流会を実施したことが『なし』の場合

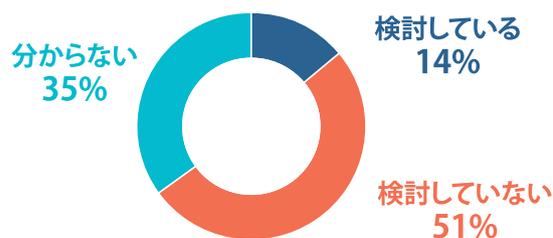
**Q1-4.** 実施していない理由を教えてください。



『その他』と答えた主な内容

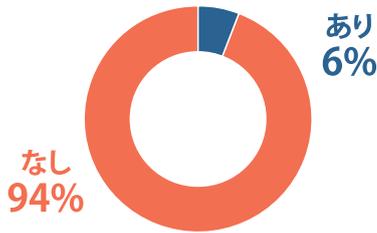
- 介護の研修で月1回実習生の集合研修を開催していたので不要と考えた
- 介護人材に係る交流会を今年度、実施する予定
- 外国人介護職員等を対象としているため
- 外国人住民を対象とした交流会は行っていない
- 在住外国人の生活支援、相談を常時行っているため
- 在日外国人との接点が少なく、ニーズの把握ができていない
- 職場内では実施しているが、地域に向けては実施企画の余裕がない
- 他団体が交流会を実施している
- 町内の日本語学校に通う外国人を対象にしたイベントを開催したことはあるが、全般ではなかった

**Q1-5.** 今後、国際交流会の実施を検討していますか。



**Q2. 外国人介護人材向けの交流会を実施したことがありますか。**

※「外国人介護人材向けの交流会」とは、地域に暮らす在住外国人で、介護職に従事、もしくは介護について学んでいる外国人を主な対象としたイベントを指します。

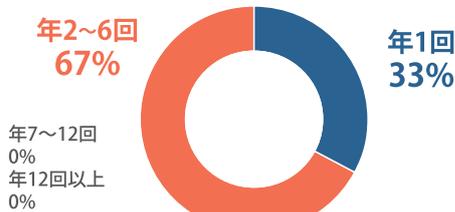


外国人介護人材向けの交流会を実施したことが『あり』の場合

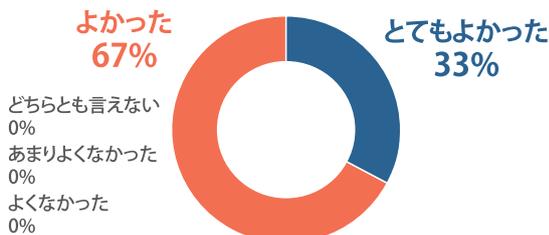
**Q2-1. どんな外国人介護人材向けの交流会を開催しましたか。**

- 介護技能実習生と上場日系企業社員とのオンライン交流会  
同世代と交流し関係性の構築や日本語力向上を目的とした交流会
- 外国人介護技能向上集合研修  
技能評価試験の合格と介護技術・日本語能力の向上を目指した研修
- 外国人介護人材のための交流セミナー  
外国人介護人材のネットワーク構築と交流を意図したセミナー
- 令和元年度外国人介護人材研修  
外国人介護人材の介護技能の向上のための集合研修など

**Q2-2. 実施回数**

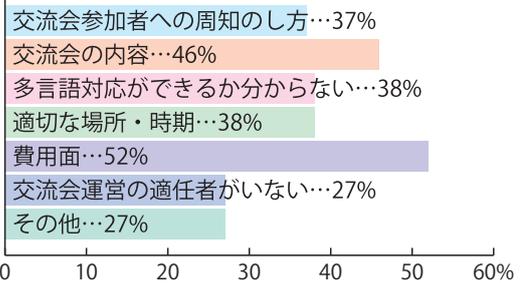


**Q2-3. 介護人材向けの交流会をしてよかったですか。**



外国人介護人材向けの交流会を実施したことが『なし』の場合

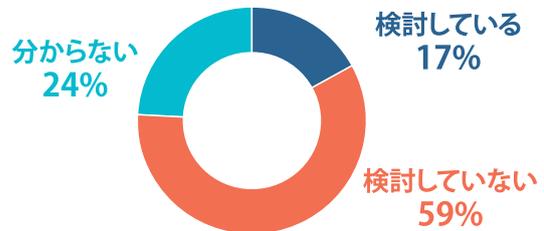
**Q2-4. 実施する上での懸念点は何ですか。**



『その他』と答えた主な内容

- コロナ禍で集客出来ない
- 全く検討していない
- 在住外国人の生活支援、相談を常時行っているため
- 参加人数（外国人介護人材に限って募集した場合、全体の参加者数が少なくなることが予想されるため）
- 近年は当協会で開催しておらず、市民団体等が実施する交流企画に助成をしているため、実施は検討していない
- 対象を限定すること
- ニーズを把握できていない
- 協会が行う交流会は、県内在住外国人全体を対象としており、一部の職種に限定したものは考えていない
- 主な対象者を介護人材とする事業の実施予定はない

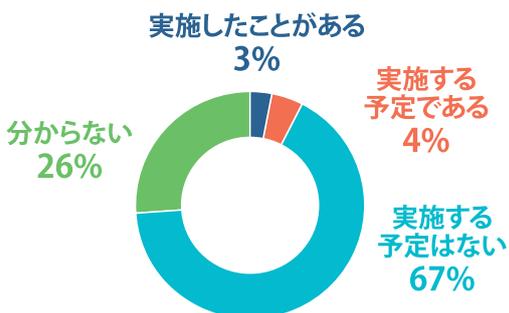
**Q2-5. 外国人介護人材向けの交流会の実施を検討されていますか。**



実際に実施した団体からは、「とてもよかった」、「よかった」という意見がたくさん出ました。



**Q3. オンライン交流会を実施したことがありますか。**



**Q3-1. どんなオンライン交流会を開催しましたか。**

- アンテナサロン～留学生と遊ぼう!オンライン交流会～  
留学生による小学生親子を対象とした文化紹介と交流会
- ミャンマー介護実習生とのオンライン交流会  
ミャンマー人の介護実習生と交流をしようという趣旨の交流会
- 外国語コーナー  
英語、中国語、スペイン語での会話を楽しむ会



どんな交流会があるのか具体的な事例を見てみましょう! きっと参考になります!

## 大使館を中心とした協働の取り組み 在日カンボジア人の集い

こんな交流会をしました!



### ・・・ 内 容 ・・・

在日本国カンボジア王国大使館のイベントで、  
愛知県と岐阜県の在日カンボジア人  
におコメと食料品を配布し、歓談をした交流会。



### 交流会実施のきっかけ

私たちは技能実習生や特定技能1号外国人を対象とした総合的な様々な支援を行っている。今回の交流会は、はじめにカンボジア大使館の大使がコロナ禍にある愛知県・岐阜県の在住カンボジア人を激励したいという意図があった。会の開催にあたり、技能実習監理団体連合会のカンボジア人職員と、カンボジア大使館の職員とが知り合いであったことがきっかけで、会の開催を手伝ってもらえないかという要請を受けて実現した。

### 対象者

愛知県、岐阜県在住のカンボジア人技能実習生や留学生。20代前半の参加者が多く、男女比は、2：1ぐらい。留学生は女性が多かった。愛知県は100人ほど、岐阜県は30人ほどが参加した。

### 実施日・会場

2020年7月26日(日) 10:30~12:00  
アイリス愛知  
2020年7月26日(日) 15:00~16:30  
ホテルグランヴェール岐山

## 参加者の反応

カンボジア大使から参加者一人一人におコメと大きな袋いっぱいの食料品が手渡され、参加者は非常に喜んでいました。また母国の人と歓談している姿から、コロナ禍での開催だったが安堵した表情が見られた。



## 交流会の周知

当組合が技能実習監理団体連合会に加入しているので、愛知県・岐阜県の他の監理団体に周知を行い、監理団体と受け入れ企業から実習生へ参加を促してもらった。また、留学生の在籍する学校などへ周知を行った。口コミで広がっていった面もある。大使館からはSNSを利用したカンボジア語での開催情報の発信が行われた。

## 事前準備

会場予約と開催周知。

## かかった経費

会場費のみで、各会場70,000円ほど。

## 準備期間

依頼を受けて2週間ぐらい。

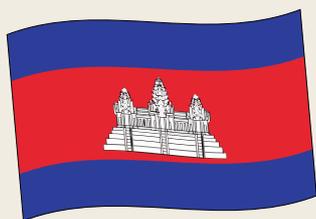
## 工夫した点・新型コロナウイルス感染症対策

会場を借りる際、コロナ禍での開催のため関係先の配慮で広い会議室を確保することができた。イベント当日は、一般社団法人国際パートナーシップセンター、一般社団法人技能実習監理団体連合会、愛知商工連盟協同組合の職員がボランティアでイベントに関する様々な業務を行ったため人件費をかけずに行うことができた。



## 実施者からひと言

今回は大使館からの要請で実現したのだが、日本にいる外国人を応援できてよかったと感じている。今後はこちら側から大使館や領事館に働きかけていきたいと思っている。また、参加者の表情からは、母国は自分たちを忘れていない、大使が来てくれたうれしさが読み取れた。コロナ禍で不安などがある中、頑張っていこうというモチベーションが高まったようだ。



## 大切に考えていること

当組合は監理団体として、実習生を監理業務の中で支援するだけでは、実習生が「日本に来てよかった」とは言ってもらえないと考えており、それ以上のサービスを行うことを意識して業務に当たっている。今年度はコロナ禍で実施できていないが、実習生がリフレッシュできるよう、ボーリング大会やフットサル大会、日帰り慰安旅行などイベントも行い、親睦を深める機会を設けている。

連絡先

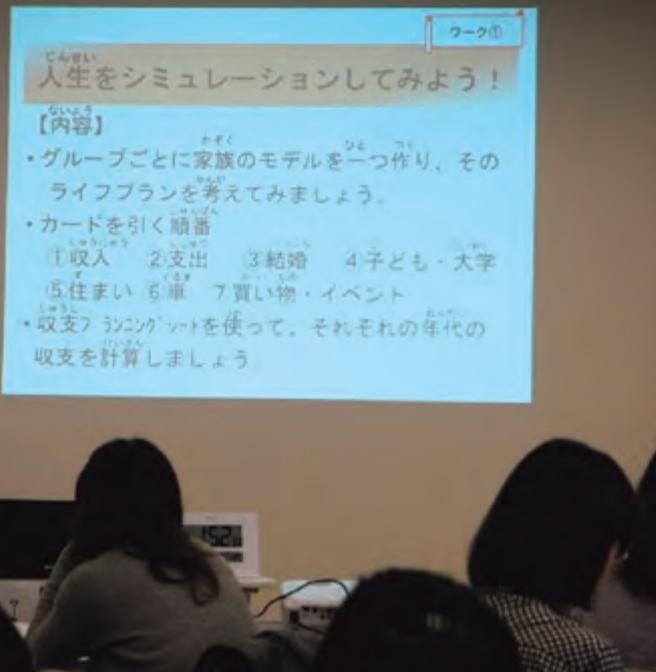
愛知商工連盟協同組合  
☎052-719-0190  
<https://ask-kaigo.jp>



## 外国人の生活力向上とコミュニティの連携促進!

# 外国人コミュニティとの意見交換会

こんな交流会をしました!



### ● ● ● 内 容 ● ● ●



県内の外国人コミュニティのキーパーソンを主な対象として、「女性と家族のためのライフプランとリスクへのそなえ」というテーマでワークショップを実施。グループごとに外国人家族の人生プランを想定して収支バランスを話し合い、予想しなかったアクシデント（世帯主の病気など）や、景気変動のリスク（事業の失敗・解雇や給与の引き下げ）をゲームで経験することで、支出の優先順位の付け方や見直し方などを考え合った（※取り上げるテーマは毎年変更）。



### 交流会実施のきっかけ

当財団では外国人住民に対して様々な事業を展開している。その一つである本事業では、日本の社会制度などに関する外国人住民の理解の向上を促すと同時に、その機会を利用して外国人住民の意見を当財団職員が聞き、今後の事業企画に反映させることを目的としている。1人でも多くの外国人住民が生活力向上に役立つ知識を身に付けたり、身近なレベルで社会資源に適切にアクセスできたりするように、参加者にはここで得たことをさまざまな場面や形でコミュニティ内に普及してもらうことを狙って実施することとした。

### 対象者

18人。多言語相談窓口やコミュニティのキーパーソンとして活動している、またはコミュニティ支援に関心があり、今後の成長が期待できる若い世代で外国につながる女性を中心に60代くらいまで。参加者の国籍は、中国、韓国、フィリピン、ブラジル、ペルー、ベトナム、インドネシア、カンボジア、ネパール、アルゼンチン。

### 実施日・会場

2018年12月2日(日)  
13:30~16:00  
かながわ県民センター

## 参加者の反応

アンケートから、「女性と家族のためのライフプランとリスク。一生の3大資金、住宅、教育、老後等に備えてお金の収入、支出などについて、勉強になりました。ありがとうございました。知人などにもできるだけ伝えます」「今まで老後のことは考えたことがないので、人生ゲームを通して、老後までの資金はどれくらい必要かを勉強させていただきました。これからは貯金をします」「ゲームを通してライフプランを立てることの大切さを学びました。外国人の多くは、貯金をあまりしないので、今日学んだことを伝えていきたいと思います。わかりやすいワークショップをありがとうございました！」という声が聞かれ、評判がよかった。

## 交流会の周知

財団で実施したコミュニティ調査や事業などのかかりから参加者を選定し、直接参加を促した。

## 事前準備

テーマ内容の検討、参加者・会場・講師依頼。講師との内容検討、資料作成など。

## かかった経費

事業費として約160,000円（諸謝金・通信費・消耗品などを含む）。

## 準備期間

約6カ月。テーマや内容の検討など（2～3カ月）、参加者の選定・会場選定・講師依頼など（1カ月）、講師と内容検討（1～2カ月）、資料作成など（1カ月）。

## 工夫した点など

参加予定者とは必要に応じて個別に会い、説明した。当日はリラックスした雰囲気に参加してもらえるように、職員が積極的に一人一人に声を掛け、飲み物やお菓子なども用意し、最後に全員で記念写真を撮って終了した。



## 実施者から一言

異なる文化的背景を持つ参加者が互いを知り、学び合う中で横のつながりが生まれた。意見交換会で得た学びをコミュニティでの集まりや仲間との懇談などで伝えたいと意欲的な発言が多く寄せられ、参加者がここで得た日本での生活に必要な知識や技術、あるいは考え方をコミュニティに持ち帰ってもらうことは意義があるのではと思う。住民同士で交流会などを企画する場合は、「やさしい日本語」を使うとよい。日本語が堪能な人がいれば、まったく日本語ができない人のために間に入ってもらうことも考えられるが、過度な負担を掛けるのはよくない。詳しい説明が必要な場合は、あらかじめ翻訳したものを用意するとよい。

## 大切に考えていること

一人一人を大切にできる意識をもって、当事者の声をよく聞き企画する。取り上げるテーマによっては、外国人特有の潜在的な課題や脆弱性、または解決のヒントなどが見えてくるので、次の企画やテーマ設定に生かしていく。

連絡先

公益財団法人 かながわ国際交流財団  
☎045-620-4466(学術・文化交流グループ)  
<http://www.kifjp.org/>



やりたいことをしよう!  
にちょうがちゃがちゃだん  
(日本語交流活動事業)

こんな交流会をしました!



● ● ● 内 容 ● ● ●



平日に働く外国人のための日本語交流活動。参加者のニーズに合わせて活動をしており、ニーズによって活動内容は変わっていく。近年ベトナム人の技能実習生の参加が増えており、日本語を学びたいというニーズに応じて日本語能力試験の勉強を行っている。写真のようにボランティアと一緒に母国の料理を作り、茶話会などを行うこともある。



交流会実施のきっかけ

当協会では外国人のライフステージに合わせ、子供向け事業や大人向け事業、多文化共生推進事業などの様々な通年事業を行っている。その中の子供向け事業に、子供を参加させている親たちが、子供が事業に参加している間何もしない待ち時間があること、また、仕事をしていて日曜日だけが休みの外国人から日曜日に何か参加できる事業がないかという問い合わせを受けたことがきっかけで事業をスタートさせた。

対象者

現在は、ベトナム人の実習生が多い。平日働いていて日曜休みの外国人。また、日曜日の同時間帯に行っている子ども向けの事業に子どもを参加させている親。通常20人ぐらいが参加。

実施日・会場

毎週日曜日10:00~12:00 (2時間)  
とよなか国際交流センター

## 参加者の反応

参加者のニーズに合わせ活動を行ってきており、内容的に満足度は高い。参加者自らが自分のベースに合わせて学ぶことができることから、参加のしやすさが聞かれる。仕事の都合によっては来れない日もあるが、いつでも受け入れてもらえるという居心地の良い居場所でもある。



## 交流会の周知

毎週行う定例事業なので、ホームページやFacebookなど（10カ国語の多言語対応）で周知する。

## 事前準備

協会で行うことは、事業の会場確保などの調整をすること。また、事業によっては調査など行うこともあるが、必要に応じてボランティアにも参加してもらい、主体的にかかわってもらう。

## かかった経費

予算は、普段の活動で使用するテキストやコピー代、ボランティア募集や育成、広報のための経費は協会の予算で賄い、交流会などは参加費を徴収して実費を賄っている。

## 準備期間

事業の立ち上げは1年ぐらいかけている。毎週の活動準備についてはボランティアに任せている。

## 工夫した点・新型コロナウイルス感染症対策

コロナ禍でオンラインでの実施も行っている。ボランティアが主体となって行う事業となるため、かかわる人がやりたいことを声に出し実施していけるように、協会からのトップダウンの事業とならないようなかかわり方を意識している。協会では日本語指導のノウハウをボランティアに教えることはしていないので、OJT という形でベテランのボランティアに日本語の教え方を教えてもらったり、外部講座の情報提供などにより、日本語支援に当たっている。

## 実施者からひと言

単に日本語学習を支援する場だけでなく、外国人の方の声を聴く場の役割も担っている。外国人の声にならないニーズもキャッチしていくことが大事だと考えており、その際、協会に勤務する外国人の多言語スタッフの存在が頼りになる。また、外国人参加者が地域でいざというときに頼れる市民同士の関係を育むことも意識している。言い換えれば、ここに来たら、あの人に会えるとか安心感が得られるとかいった点を重視しており、「また来ることができる場・来たいと思える場」を作っていくことが大事だと考えている。

## 大切に考えていること

支援者と非支援者の役割を固定させないこと、そして、外国人がエンパワメントされていくことを大切にしている。ボランティアや関係者が一堂に会する事業のふりかえり会を1年に1回行っているが、その評価ポイントは3つある。1つ目は居場所づくり（安心・安全な場か）、2つ目は双方向性があるか・参加者・ボランティアの声が反映されているか、そして3つ目はエンパワメントされているかという点である。事業にかかわるボランティアも独自に養成している。



連絡先

公益財団法人 とよなか国際交流協会  
☎06-6843-4343  
<https://a-atoms.info/>



一緒に食べてリフレッシュ!

# 青空ランチ会

こんな交流会をしました!



## ● ● ● 内 容 ● ● ●

ランチを食べながら、  
普段会う機会が少ない他企業で働く外国人同士が  
歓談して交流する。



### 交流会実施のきっかけ

当組合は監理団体として技能実習生の、そしてグループ機関のフレンドリージャパン人材開発(株)は、登録支援機関及び外国人材紹介会社として、日本で生活する外国人の各種支援を行っている。技能実習生は日本語講習を終えて、実習実施先での実習が開始されると、実習生同士普段会う機会は少ない。また、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、気軽に出かけられない状況で、外国人らが疲弊していないか心配だった。加えて実習生は母国への送金のため、普段食費を切り詰めて生活していることが多く、健康面も心配していた。母国において家族みんなで温かい食卓を囲んでいたように、母国語で話しながらいつもより少し豊かな食事を取り、少しでも心が安らぐ機会を作ることができればと思い発案した。

### 対象者

23人(技能実習生や1号特定技能外国人、高度外国人材など。ミャンマー人・ベトナム人が参加。20~30代。自社の技能実習監理団体およびグループ機関である外国人材紹介会社で支援する外国人。参加者の就労先企業の日本人3人、フレンドリージャパンスタッフ3人)

### 実施日・会場

2020年7月12日(日) 11:30~14:00  
組合がある社屋内(屋外へ通じる換気がよく、密にならないスペース)

## 参加者の反応

参加者から「楽しかった」「リフレッシュできた」という声が聞かれた。母国語で楽しそうに談笑しており、慣れない日本、また、コロナ禍で制限された生活の中でのストレスが少し発散できたようだった。

外国人受け入れ企業の日本人も参加しており、コロナ禍でストレスを日本人以上に抱えていないか心配していたが、楽しくしている姿を見られて安心したとの声が聞かれた。

また、スタッフと参加者のかかわりを見ていただく機会となり、受け入れ企業の方にとって実習生へのかかわり方や、やさしい日本語での伝え方を知ってもらう機会になったとも思われる。

## 交流会の周知

まず外国人を受け入れている企業に開催趣旨や感染症対策について説明・理解してもらった後、外国人本人へ参加の意思を確認し、参加希望者に開催通知を行った。

## 事前準備

お弁当・飲み物・新型コロナウイルス感染症対策グッズ・レジャーシート・テーブルレンタル。



## かかった経費

80,000円ほど。参加費は外国人1,000円、日本人3,000円とし、外国人の会費は受け入れ企業に負担をお願いした。

## 準備期間

1カ月ほど。日にちと場所決め→企業へ声掛け→実習生案内文作成→弁当発注・必要物購入・レンタルなど。

## 工夫した点・新型コロナウイルス感染症対策

当初は、新型コロナウイルス感染症予防対策のためにも屋外の公園で行う予定であったが、雨天により急遽実施場所を変えることとなった。そのため、社屋内で扉を開放できる場所を選び、かつ食事時にはほかのテーブルとは一定の距離を取った。また、急遽場所が変更になったため、公共交通機関での移動が難しくなり、参加者を家まで迎えに行くことになり、送迎のタイミングを調整するのが大変だった。お弁当には、参加者の母国であるベトナムの春巻きとミャンマーのお菓子を入れ故郷の味が楽しめるようにした。

## 実施者からひと言

交流会の実施を連絡したときから、当日まで心待ちにしてくれていた。普段接する機会のない他企業・同郷の新しい友人もでき、以降 SNS などを使って交流をしている様子。また、その交流の中で日本語能力試験を受けた参加者に感化されて、他の参加者も受検を希望し、日本語学習を熱心に行っている。楽しいだけでなく、お互いよい影響を与え合える仲間ができる機会になったことも、とても嬉しく思っている。

## 大切に考えていること

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり1回しか実施できなかったが、今後は1年に数回実施したい。特定技能外国人の受け入れに当たっては、地域とのつながりを作る必要がある。このコロナ禍ではなかなか難しいが、外国人を受け入れる企業を対象としたセミナーも実施しており、外国人材のよさを伝えるとともに、外国人材への理解を深めてもらう機会をこれからも作っていきたい。

「知らないこと」は不安を招くので、お互いを知る機会の場の創設が重要だと考える。



連絡先

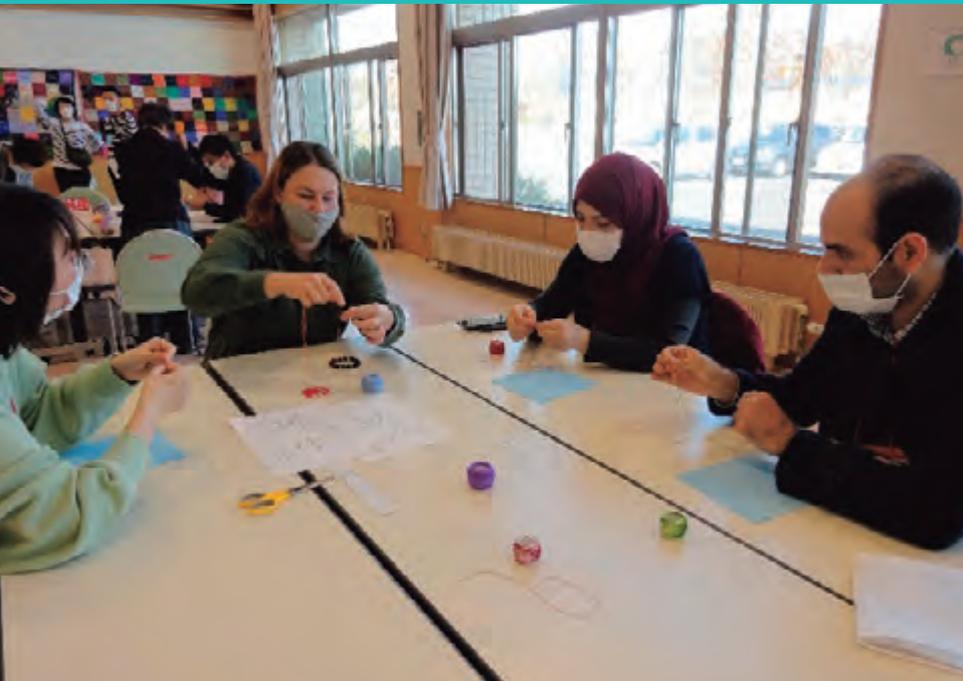
フレンドリージャパン協同組合  
☎076-427-2735  
<https://friendly-jp.net/>



地域特有の文化に触れよう!

# 留学生ふれあい交流 in いぶり

こんな交流会をしました!



## ・・・ 内容 ・・・

1泊2日のバスツアー。1日目は民族共生象徴空間「ウポポイ」の視察やアイヌ文様刺繍体験を通じてアイヌの歴史や文化を学び、白老町の地域住民と交流をした。夜は洞爺湖温泉に宿泊し、温泉文化や和風旅館の雰囲気堪能した。2日目は洞爺湖町の有珠山へ行き、過去の度重なる噴火による災害の状況を知るとともに、火山が与えてくれる北海道の豊かな自然に触れる機会となった。

## 交流会実施のきっかけ

当センターでは、国際交流や国際協力についてさまざまな事業展開、セミナーなどによる発信を行っている。その中で今回は北海道で学ぶ留学生が、普段足を運ぶことのできない地域を訪問し、その地域特有の文化に触れ、地域住民との交流により理解をより深め、北海道での留学の意義を感じてもらえるようにと毎年実施している。今回は、2020年にオープンした民族共生象徴空間「ウポポイ」を訪れ、アイヌの文化や歴史に触れてもらいたいと思い、胆振方面へ訪れるツアーを企画した。

## 対象者

北海道内の大学(学部・大学院)へ留学している留学生21人(中国、韓国、香港、フィリピン、ベトナム、カンボジア、マレーシア、ミャンマー、バングラデシュ、フィジー、トルクメニスタン、ウズベキスタン、アルジェリア、エジプト、スーダン、ザンビア、マダガスカル、モーリシャス、ブラジルの19カ国・地域)。男性9人、女性12人で、20代19人、30代2人。

## 実施日・会場

2020年11月7日(土)  
8:30～19:00  
2020年11月8日(日)  
9:00～18:00

## 参加者の反応

「コロナ禍において貴重なイベントを開いてくれたことを感謝している」「人に会って交流ができてうれしい」という声が聞かれた。留学生があまり在籍しない地方の大学に通う学生は孤立しがちであり、その参加者から「友達できてよかった」という声が上げられた。

## 交流会の周知

作成したチラシをメールに添付し、道内大学の留学生担当課を介して周知。また、当センターのホームページ上にも掲載した。



## かかった経費

独立行政法人 日本学生支援機構の助成金 約400,000円 + 自主財源約200,000円 で、合計600,000円ほど。

## 事前準備

訪問先および視察先との事前打合せ、移動手段・宿泊先の確保（3カ月前）。道内大学への周知募集開始（2カ月前）。参加者決定と通知、配布資料の準備、翻訳作業（1カ月前）。新型コロナウイルス感染症の対策として、実施日の3日前から、全参加者に検温を依頼した。そして、実施前日に全参加者より体調および検温の報告を受けた。

## 準備期間

約3カ月。

## 工夫した点・新型コロナウイルス感染症対策

地域住民の方がさまざまな文化背景を持つ留学生と交流ができるように、参加留学生の国籍のバランスに配慮した。また、参加留学生の宗教への配慮や、宿泊の際、文化性が近い人と同室になるようにした（一部屋2人）。新型コロナウイルス感染症対策として、大型バスを利用（乗車率は50%以下）し、実施日の3日前からの検温報告と参加中の検温、手指消毒を徹底した。自由時間も設定した。引率スタッフは日英両言語で対応した。

## 実施者からひと言

留学生を含め在日外国人の多くは、言葉や文化習慣などの背景の違いから地域にすぐになじまず、地域で孤立する可能性があることから、地域住民と在日外国人が気軽に交流できる企画はニーズが高いと思われる。また、開催地の住民も肩肘を張らずに準備や参加ができ、今回のような刺繍体験や調理など両者が一緒に活動できる機会があると、言葉の壁を超えて自然に交流が生まれやすい。

## 大切に考えていること

今回の交流事業は募集時点から反響が大きく、また、実際に参加した留学生からも大変好評であったため、もう一度行いたいと考えているが、コロナ禍で状況を見極める必要がある。北海道の多彩な魅力に触れ、留学生が地域住民との交流を通じて地域を知ること、「北海道に留学してよかった」という気持ちが芽生え、「北海道で暮らしたい」という定着につながる可能性もあることから、このような事業が果たす役割は非常に大きいと考える。応募してきた数名の留学生から「友達を作りたい」という声が聞かれ、交流機会の提供は大事だと考えている。留学生だけではなく、日本人側の参加者が留学生との交流を通じて、さまざまな国に興味や関心を持てるような機会とし、また、関係者全員が達成感や充足感を得られることも大切に考えている。主催者も含め、交流事業にいろいろな立場でかかわる全員にとって、都度、発見や学びのある機会になればと考えている。



連絡先

公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター

☎011-221-7840

<https://www.hiecc.or.jp/index.html>



みんなで創り上げる!

# 地球人まつり in まつやま・えひめ

こんな交流会をしました!



## ・・・ 内容 ・・・

県内で活動している国際交流団体の活動紹介や、日本人ボランティアと外国人が協働して創り上げる世界各国のブース、在住外国人によるフードブース、民族衣装の試着ができたり、ステージパフォーマンスが行われたりする。



## 交流会実施のきっかけ

愛媛県の国際交流協会と松山市の国際交流協会との共催で行っている事業である。共催実施は 2012 年度からであるが、地球人まつりは 1995 年から始め、2019 年で 23 回目を迎えた。開催当初は 2 年に 1 回だったが、1 年に 1 回行うようになった。なお、2020 年度はオンラインで開催した。活動の理念は愛媛県にある NPO などの国際交流団体の活動や、自分たちの地域にもいろいろな外国住民がいることを知ってもらおうというものである。また日本人ボランティアと外国人が協働する場を設けることも大事な交流の視点と考えている。

## 対象者

愛媛県民、国際交流に興味のある人であればどなたでも参加可能。ただし、出展者には、宗教・政治活動を目的とした出展は認められない。また、フードブースにレストランなどを経営されているプロの方も出展できない。老若男女、約1600人来場した。

## 実施日・会場

2020年1月19日(日) 13:00~17:00  
松山市総合コミュニティセンター企画展示ホール

## 参加者の反応

来場者からは、「自分の住んでいる地域にこんなにいろいろな国から来た人が住んでいることを知らなかった」「子供が楽しめ学べるのがよい」という声があり、出展者からは「準備は大変だったが、国籍・年齢が異なる方と交流できてよかった」「来年もまた出展したい」との声が多く上がった。



## 交流会の周知

開催日が毎年1月であり、12月に入ってから周知を始める。ホームページをはじめ、メールニュース、SNS、チラシ・広報誌・情報誌（紙媒体）、広報ラジオ（テレビ）で行っている。留学生を受け入れている大学や初等中等教育機関にも開催案内を送る。出展者の口コミも効力を持つ。日本語・英語とやさしい日本語を使用。

## 事前準備

各国紹介ブースは、出展者とボランティアスタッフを同時に募集。国ごとのグループを作り、その後、準備場所・消耗品などを提供するが、内容については出展者・参加者に任せる。団体の活動紹介のブースも各出展者に任せている。その他、会場確保・設営、スタンプラリーの景品や消耗品などの購入などを行う。

## かかった経費

会場費および会場設営で約1,200,000円、消耗品約200,000円、その他経費約300,000円。

## 準備期間

国際交流団体の活動紹介への出展希望は11月から募集を開始し12月に団体を決定する。基本準備は団体に任せている。その他のブースも11月から募集を開始する。そして、日本人のボランティアと外国人と一緒に創る各国のブースは12月に入ってから第一土曜日に最初のミーティングを行い、その後、まつやま国際センター内で準備を進めてもらう。その他のブースは各団体に準備を任せている。

## 工夫した点など

基本、禁止事項などのガイドラインは決めているが、出展者に自由にやってもらうスタンスを取っている。出展者にも、まずは楽しんでもらいたいと思っている。気付いたことや困ったことがあれば、いつでもセンター職員が相談に乗る体制を取っている。各団体の意見に耳を傾け、対応するようにしている。

## 実施者から一言

非常に活気があるイベントである。協会スタッフの人数も決して多くない中、このイベントを毎年行えるのは、ボランティアなどこのイベントに携わる400人近くの人たちのおかげである。かかわる人が皆で創り上げているイベントと考えている。

## 大切に考えていること

工夫した点にも重なるが、出展者が伸び伸びと活動できるようにサポートしていくことが大事だと考えている。また、外国人にとって頼りになる存在になるよう、気軽に協会スタッフと話すことができる雰囲気づくりを心掛けている。

連絡先

公益財団法人 愛媛県国際交流協会  
☎089-917-5678  
<http://www.epic.or.jp>



公益財団法人 松山国際交流協会  
まつやま国際交流センター  
☎089-943-2025  
<https://www.mic.ehime.jp/MIC/top.html>



外国人ママ活躍!

# アンテナサロン in 浜田

## ～世界の絵本でおはなし会～

こんな交流会をしました!



### ● ● ● 内 容 ● ● ●

地域在住のロシア人と中国人の母親にお願いし、  
自国の絵本を読んでもらったり、手遊びやダンスなど  
教えてもらう多言語おはなし会を実施した。



### 交流会実施のきっかけ

当センターでは、外国人住民の総合的な支援や、多文化共生に向けた事業を行っている。地域に在住する外国人の増加に伴い、外国につながる子どもたちの数も増えてきた。その背景をふまえて、親子で参加できる交流会を企画した。また、子育て中の外国人住民が母国語を活かして、地域に参加できる場としても機能するよう、今回交流会の担当者にロシア人と中国人の母親をお願いをして、会が実現した。

### 対象者

浜田市在住の親子。日本人も外国人も参加。子どもは0歳の赤ちゃんから小学校低学年ぐらいまで。43人が参加。内訳は大人18人、子ども25人。

### 実施日・会場

2019年3月30日(土) 10:00～11:30  
浜田市図書館2階 多目的ホール

## 参加者の反応

「なかなか触れることのないロシアや中国の話はとても楽しかった」「ダンスが楽しかった」「いろいろな遊びや、文化紹介など、さまざまな年齢の子が参加できる内容でよかった」「中国語やロシアの言葉も覚えたので、ぜひ（街で）会ったとき話してみたい」などの声が上げられた。

## 交流会の周知

チラシを作成（多言語・やさしい日本語）して配布。配布先は行政関係機関など（多文化共生担当課や子育て支援センター、教育委員会、図書館、日本語教室、国際交流団体、読み聞かせボランティア団体など）。各機関の担当者から、コミュニティを紹介してもらい、さらに周知を重ねていく。また口コミでも広がるように、外国人住民などキーパーソンとなる人にも周知を依頼する。

## 事前準備

本交流会の協力者でもあるボランティアの方々との打ち合わせや調整などを行った。主な調整内容は、会場手配、広報活動の一環としてチラシを作成、書籍などの準備、当日配布資料としてメニューやアンケートの準備である。また、参加申し込みの受付や問い合わせなどは、日々当センターで対応を行い当日を迎えることができた。

## かかった経費

会場費2,400円、ボランティア謝礼3,000円、書籍等購入8,500円。

## 準備期間

3カ月前から。周知は2カ月前から行う。

## 工夫した点など

地域の方に外国人住民の存在を身近に感じてもらうこと、イベント後にも顔の見えるつながりができることを期待し、実施者（ボランティア）は地域在住の外国人住民から調整した。また、普段はかかわりの少ない地域団体にも協力をお願いし、他分野との協働を意識して行った。

## 実施者から一言

今回は親子向けのイベントであったことから、普段国際交流に関心が高くない日本人にも参加しやすく、交流の機会が自然と生じるきっかけとなった。併せて外国人の親同士をつなげる場ともなり、また、外国につながるのある子どもが親の母国の文化に触れるよい機会にもなった。



## 大切に考えていること

外国人支援団体や、交流に関心を持つ外国人・日本人・学生などが一緒にかかわり協力してイベントが行われるため、協働しやすい体制を整えること。日頃からネットワーク作りを意識し、外国人住民や地域団体などの協力者を増やしながらかつそれぞれをつなげていくこと。また、交流会の内容が広がるように心掛けている。

連絡先

公益財団法人 しまね国際センター西部支所  
☎0855-28-7990  
<https://www.sic-info.org/>



# 2017年度石巻に吹くベトナムの風 ～ベトナム人技能実習生との交流会～

こんな交流会をしました!



## ● ● ● 内 容 ● ● ●

石巻市内に暮らすベトナム人技能実習生について地域の日本人住民に知ってもらうことを趣旨としたイベント。実習生による実習内容・ベトナム文化の紹介、実習風景の写真展示、ベトナム料理の試食、歌や踊りのパフォーマンス、民族衣装の試着、ベトナムについてのクイズなどを行った。



## 交流会実施のきっかけ

当協会では、本県の多文化共生推進のため、自治体や市民団体などの関係機関や登録サポーターと連携のうえ、様々な取り組みを行っている。本事業の背景には、近年の県内における技能実習生数の増加がある。実習生が日ごろの生活の中で接する人は、会社の人に限定されていることが多く、日本人住民は地域在住の技能実習生について知る機会がほとんどないのが現状である。技能実習生が「見えない存在」となっている場合もあることから、技能実習生と日本人住民等との接点を作り、互いのことを知る機会を設けたいと思い、石巻市の市民団体（国際サークル友好 21）・石巻市役所に声をかけ実現した。

## 対象者

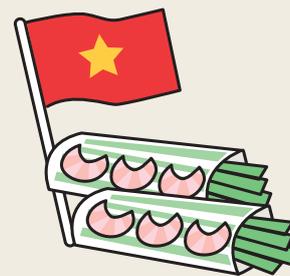
石巻の地域住民やイベント実施者ではないベトナム人、ペルー人、台湾人、中国人などが参加した。男女比は半々で、実習生は20～30代が多かった。参加者は120人ほどだった。

## 実施日・会場

2017年10月1日（日）  
14:00～16:00  
石巻市総合福祉会館みなと荘

## 参加者の反応

イベント実施者側となる実習生からは「ベトナムの文化や歴史を紹介できて、幸せと誇りを感じた」「日本人とたくさん話した。日本語を教えてもらった」「お客様にベトナム語でシンチャオと挨拶できた。幸せです」などの声が上がった。また、実習生を支えた市民団体のボランティアからは「実習生と以前より仲良くなった」「生き生きと活動している実習生が見られたことがよかった」などの感想が聞かれた。



## 交流会の周知

チラシを作成し周知した。市の協力で回覧板で広報したり、市民団体のネットワークを活用したりして、情報の拡散に努めた。

## かかった経費

150,000円ほど（食材20,000円、消耗品、交通費、実施者側に行ったアンケートのベトナム語翻訳費用など）。

## 準備期間

2カ月ほど。

## 事前準備

### 企画

市民団体と市役所とともに内容を検討。プログラムごとに実習生と市民団体のボランティア・市職員がグループを作り、グループごとに詳細について検討し交流会当日まで準備を進める。

### 広報

チラシを作成するなどして周知に努める。

### 運営の準備

市役所が主となり、会場となる施設側と施設利用や当日の運営方法などについて協議を進める。

## 工夫した点など

企画当初から地元の市役所・市民団体と連携を図ったほか、実習生雇用企業にも趣旨を説明して、理解を得るようにした。また、当日は実習生が「主役」となり、日本人側がサポート役になるよう配慮した。

## 実施者からひと言

市役所と市民団体が事業の趣旨を十分に理解してくれたおかげで、よい協働体制の下で実施することができた。交流会の実施者側のみではあるが、実施後に行ったアンケートでは、かかわった全員が交流会を行ってよかったと肯定的な回答をしたこともうれしく感じている。交流会の参加者に実習生についていろいろと知ってもらうよい機会になったとも振り返っている。

## 大切に考えていること

地元の人たちとの連携が大切だと考えている。今回連携を図った市役所や市民団体とは、この交流会を企画する以前から付き合いがあり、信頼関係があったので、当初から円滑な協働体制を築くことができた。全てを当団体のみで手掛けるのではなく、地元の人たちの意向をふまえつつ、互いの強みを生かして役割分担をしながら準備を進めていくことが、事業の着実な実施や事業後の次の展開につながると思われる。

連絡先

公益財団法人 宮城県国際化協会  
☎022-275-3796  
<http://mia-miyagi.jp/>



介護の魅力発信!

# 留学生と外国人介護職員のための交流会

こんな交流会をしました!



## ・・・ 内 容 ・・・

講座「介護予防を学ぼう」を行い、  
その後歓談を行った。  
折り紙作品を展示したり、  
一緒に折り紙をしたりした。



## 交流会実施のきっかけ

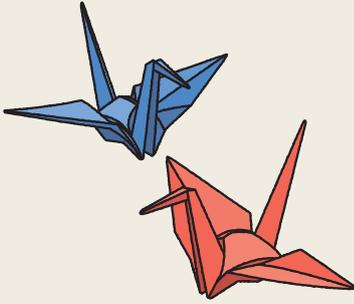
当センターは介護職として就労する外国人・介護職を目指す留学生などが、生活や仕事上の悩みを相談できる役割を果たすため、2019年に設立された。研修などの実施を通して、介護分野における外国人材の確保・定着に関する事業も行っている。その中で、介護に携わる外国人や介護に興味がある外国人向けに、彼らが長期間日本で働けるような環境づくりの一つとして「仲間づくり・ネットワーク形成」を意図した交流会を1年に2回ほど行うことにした。

## 対象者

千葉県内の介護の仕事をしている外国人（在留資格不問）。介護の仕事に興味がある日本語学校の留学生（ベトナム・スリランカ・フィリピン・タイなど）や養成校の留学生も参加。20～30代の女性が多く、外国人の付き添いという形で、介護施設の職員や日本語学校の先生も参加した。参加者は15人であった。

## 実施日・会場

2020年10月14日（水）  
13:30～16:00  
ホテルウェルコ成田



### 参加者の反応

帰り際に「楽しかった、また参加したい」という声が上がった。1年に2回の実施だが、リピーターとして再度参加してくれる人もいた。また参加者の中には交流会がきっかけとなって介護の仕事に興味を持った人もいて、その人から後日介護職に関して相談を受けることもあった。腰痛予防といった介護職にとって役立つ内容に関する発信も参加者からは好評であった。

### 交流会の周知

2カ月ほど前から参加者を募る。介護施設や日本語学校、養成施設などにチラシを送ったり、SNSなどでも周知したりする。ホームページでは英語とベトナム語で案内をしている。進路選択の一つとして考えてもらえればと、日本語学校などに直接訪問し案内を行うこともある。

### 事前準備

会場を押さえたりプログラムの検討など。折り紙などの作品を作成し、当日作品を展示したり、参加者に折り方を教えるなどの準備をしている。周知に力を入れている。

### かかった経費

金額については、2回合わせて、400,000～500,000円ぐらいである。会場費の出費が大きい。

### 準備期間

開催日の2カ月ほど前から準備する。担当職員2人で行っている。

### 工夫した点・新型コロナウイルス感染症対策

講義のテーマは、参加者に介護について知ってもらうことや、介護職として働く上で役立つ情報を提供したいという思いから、検討し決めている。また、参加者が飽きないようにプログラムを組み合わせ、最後まで参加してもらえるよう工夫している。

交流会時はやさしい日本語で対応している。

開催地も養成校や日本語学校が集中し、留学生が多い地域で行った。

コロナ禍を考慮し、歓談中もマスクをし、あまり大きな声で話さないように参加者へ促した。

### 実施者からひと言

参加者が楽しんで帰って行ったようでよかったと考えている。参加者を集めるのが大変だが、介護の養成校や日本語学校を訪問し、説明するなど工夫を凝らしながら募集を行っている。参加する外国人のネットワーク形成を目指すとともに、介護について知ってもらう機会、介護の魅力を発信する機会とも捉えており、地域に根差し長期的に働けるように今後も内容を検討していきたい。



### 大切に考えていること

今回は外国人向けの交流会であるが、施設の日本人職員向けに、介護職を担う外国人が働きやすい環境を作ることを意図したメンタルヘルスセミナーなども行っている。施設向けということで意見交換・情報交換の場でもあり、近隣施設のつながりや好事例の共有などにつながることを期待している。

連絡先

社会福祉法人 千葉県社会福祉協議会 千葉県外国人介護人材支援センター

☎0120-054-762

<http://www.chibakenshakyo.net/publics/index/339/>



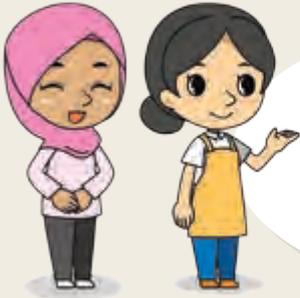
# 介護の仕事のための日本語セミナー 動画で学ぶ介護の言葉

こんな交流会をしました!



## ● ● ● 内 容 ● ● ●

「一般社団法人 にほん語でかいご共育会」との共催により、共育会が作成した介護の日本語教材「にほん語でかいご」、および当協会と共育会が共同で作成した自学用「介護の日本語動画」の使い方を紹介するセミナーを行った。



## 交流会実施のきっかけ

当協会では様々な多文化共生社会づくり事業を行っている。介護職として働く・学ぶ外国人を支援している「一般社団法人 にほん語でかいご共育会」とは、事業を通して長年の関係を築いてきた。その中でまず、2018年度に「介護の仕事のための日本語教室」を開催した。1コース全10回で、年度内に2回開催した。好評であったものの、10回通うことが大変に感じる外国人もいたため、一人でもいつでもどこでも学習できることを目的に、テキストと連動する動画を作成し（自作のコンテンツ）、その使い方などの活用セミナーを行うことにした。

## 対象者

栃木県内在住の介護施設で働いている外国人16人と、介護の仕事に興味のある外国人17人計33人が参加した。国籍の内訳は、タイ、中国、ネパール、フィリピン、ブラジル、ベトナム、ペルー、ベルギー、マレーシア。その他施設関係者（日本人）が6人参加した。

## 実施日・会場

2020年7月11日（土）10:00～12:00  
とちぎ国際交流センター

## 参加者の反応

アンケートでは、「大変よかった」が11人、「よかった」が20人、「あまりよくなかった」が2人であり、ほとんどの参加者がセミナーを有意義であると考えている。

「講師のやさしい日本語での説明が分かりやすかった」「テキストは無償配布であり、テキストに連動したYouTubeの動画もあるので今後の自宅学習に役立つ」「仕事に役立つ」などの声が上げられた。

## 交流会の周知

ホームページ、Facebook、Eメール（外国人向けのメールサービス）、外国人キーパーソン（県内に住む外国人でSNSなどで多くの人とつながっている人）、ネットワークやトランスレーターバンク登録者、関係機関への通知や、チラシの設置依頼（県内市町国際交流協会、社会福祉協議会、ハローワーク、外国人が集まる店舗や教会）などを通じて行った。

## 事前準備

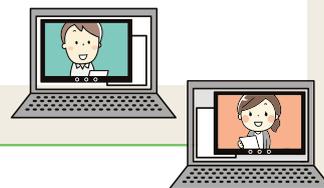
広報チラシは11カ国語（日本語・英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・インドネシア語・タガログ語・タイ語・ネパール語・シンハラ語）で作成した。動画作成のため、県内介護施設、および同施設で働く技能実習生に協力を仰ぎ、「にほん語でかいご」の授業風景を撮影した。

## かかった経費

25,000円。セミナーのチラシのコピー代、郵送料などの経費。協会の施設を使用したため会場費はかからず、講師はボランティアのため謝金は発生していない。

## 準備期間

動画撮影および編集に約10カ月かかった。セミナーの開催決定から実施まで、周知期間などを含め約3カ月。



## 工夫した点・新型コロナウイルス感染症対策

講師は「やさしい日本語」で説明した。

新型コロナウイルス感染症対策（マスク、検温、アルコール消毒、換気）をしっかり行い実施した。



## 実施者から一言

本セミナーを通して、介護をやってみたいという外国人に出会う機会になった。介護施設の仕事に興味はあるが、言葉の壁のために利用者や職員に迷惑をかけるのではないかと心配する外国人もいる。今回、介護に特化した日本語を学ぶための動画教材を紹介することで、外国人が介護分野で就労するための一助になったと思う。

## 大切に考えていること

人材不足が叫ばれ続けている介護分野において、外国人の活用はとても重要と考えている。今後もこのようなセミナーを通して、介護分野に興味のある外国人を支援していきたい。



連絡先

公益財団法人 栃木県国際交流協会

☎028-621-0777

<http://tia21.or.jp/>



オンラインで各地とつながる!  
介護現場で働く・介護を学ぶ人のための  
オンライン交流会2020

こんな交流会をしました!



● ● ● 内 容 ● ● ●

介護職として仕事をしている外国人、介護の勉強をしている、または興味がある外国人が交流できるオンラインの場を設け、孤立せず日本で安心して生活ができるように知り合いを作ることを主目的としたもの。当日は参加のルールなどを確認した後、全体で、そして小グループでコミュニケーションワークを行い、参加者の感想を共有した。オンライン交流会の参加者には、参加者限定の Facebook グループに参加できるようにし、引き続き交流を深められる場を提供し、かつ、腰痛対策や、童謡を一緒に歌うこと、日本語能力試験対策などのテーマで就労支援のためのコンテンツを Facebook のライブ配信を利用し行った。

交流会実施のきっかけ

当初は地域ごとに参加者が集まり、地域に知り合いを作る、そして相談会や情報提供等を行う集合形式の交流会を行う予定だった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、オンラインでの実施を試みた。

対象者

介護現場で働く外国人、養成施設などで介護の勉強をしている外国人、介護の仕事に興味がある外国人、高等教育機関で福祉系の専攻をしている日本人学生。全9回の交流会で、平均すると1回につき20人ほど参加。日本人学生を除く参加者の国・地域はベトナム、インドネシア、フィリピン、ネパール、ミャンマー、メキシコ、タイ、香港、中国、韓国。在留資格は特定活動、技能実習、留学、特定技能1号、技術・人文知識・国際業務など。

実施日・会場

2020年9月11日(金)、10月1日(木)、10月16日(金)、10月28日(水)、11月19日(木)、12月2日(水)、2021年2月4日(木)、2月16日(火)、2月25日(木)  
18:30~20:00(1時間半) 全9回

## 参加者の反応

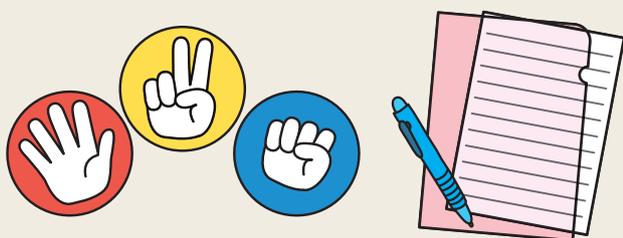
参加者からは「日本語があまり分からなくても参加しやすかった」「初めて参加したが、全国の方と交流ができてうれしかった」「今回で3回目の参加だが、毎回違う人と交流ができてうれしい」（外国人）、「初めて会ったとは思えなかったぐらい、ガールズトークをして面白かった。（交流会の）延長お願いします」（日本人）などの声が上がった。

## 交流会の周知

チラシを作成し、外国人を受け入れている介護施設、技能実習監理団体、養成施設、日本語学校、関係団体などに配布した。ホームページやFacebook、LINEなどを利用し周知した。ホームページは日本語を含め12言語に翻訳されるよう設定している。

## 事前準備

コンテンツの決定。オンライン交流会の配信会場・業者決め。講師依頼。チラシの作成と周知。参加申込フォームの作成。当日使用する資料作成。アンケートの作成。記念品の発注など。



## 準備期間

約6カ月。テーマや内容の検討など（2～3カ月）、参加者の選定・会場選定・講師依頼など（1カ月）、講師と内容検討（1～2カ月）、資料作成など（1カ月）。

## 工夫した点など

全9回一括して申し込めるようにしたため、開催日の数日前と当日にリマインドメールを配信し参加を促した。ツールはZoomを用いたのだが、受付時のZoomの操作サポートなども行った。また、交流会の開始時間30分前から受け付けを行ったのだが、早く受け付けをした参加者がリラックスできるよう声掛けを積極的に行った。コミュニケーションワークのときには、参加者同士が交流を深められるようZoomのブレイクアウトルームを活用し、小グループでワークに取り組めるようにした。参加者をグループに振り分ける際、国籍やリピーターを考慮した。

## 実施者から一言

交流会の共通言語は日本語である。コミュニケーションを軸としたワークを行うことにより、さまざまな国・地域、日本語レベルの参加者が安心して参加できるように努めた。また、交流会の配信業者、コミュニケーションワークの講師、職員が、各交流会後に毎回振り返りを設け、振り返りを行った。

## 大切に考えていること

オンライン交流会自体は単発の実施ではあるが、参加者同士が参加者限定のFacebookグループに登録し、コンテンツや情報などへのアクセスを通し、緩やかな関係を築き、ネットワークを広げていくことも狙いとしている。すぐに成果として出てくるものではないが、情報の発信などを通し、人をつなぐ役割も果たしていきたいと考えている。



連絡先

公益社団法人 国際厚生事業団  
☎03-6206-1262  
<https://jicwels.or.jp/fcw/>



がい こく じん かい ご じん ざい  
**外国人介護人材**  
む りょう そう だん  
**無料相談サポート**

そう だん む りょう **相談無料** ひ んみつ げん しゅ **秘密厳守** さん しや つう わ **三者通話** (つう やく 通訳サポート)

- せい かつ **生活サポート**・VISA に関するサポート かん  
に ほん ご がくしゅう **日本語学習サポート**・ろう む かん り **労務管理サポート**



に ほん ご がくしゅう **日本語が難しい!** こ ようけいやくしよ ないよう **雇用契約書の内容がわからない!**

がい こ ぶん や **介護分野でよく使う日本語テキストはありますか?**

か ぞく よ せたい ですが、い ま **今**の VISA で **認められますか?**

せんもんか **専門家**とバイリンガルスタッフが **対応**します!  
ひとり で なやま ない で、**相談**してくださいね!



 **0120-118-370**

たい おう  
対応  
にち じ  
日時

月・火・木 (平日のみ)  
9:30~18:00

たい おう  
対応  
げん こと  
言語

日本語 英語 中国語 インドネシア語  
ベトナム語 タガログ語 タイ語  
ネパール語 ミャンマー語  
クメール語 モンゴル語



**JICWELS**

## 交流会を企画するときのポイント!!



今回の交流会事例から、交流会にはさまざまなものがあり、実施者がいろいろな思いや視点を持って実施していることが見えてきました。これから交流会をやってみたい！というみなさんにとって、ポイントとなる部分を挙げてみました。

### ①ニーズや様子を探る

交流会とは、『人と人との絆を深める』という目的が必要だと考えられます。そのため、あなたが関わる外国人は、生活や仕事についてどう感じて、どう過ごし、どのように思っているのでしょうか。また職場や地域に住む日本人の外国人とのかかわりはどうでしょうか。是非、この機会に周囲の人に聞いてみてください。いろいろなことが見えてくると思います。聴かれた声から、どのような交流会が求められるか考えてみましょう。現場に合う交流のデザインにつながると思います。まずは、身近なことから実施してみたいかがでしょうか。

### ②目的を決める

交流会に参加する人が、交流会に参加後どのようになっほしいか、主催者側の願いを明確にしましょう。例えば、今回の事例の中には「仲良くなる」「地域にいる外国人や外国文化を知ってほしい」などいろいろありました。目的が具体的にすることで、交流会内容や参加者像も具体的にになります。

### ③対象となる参加者を決める

行おうとする交流会の参加者はどのような人を対象とするか考えてみましょう。また、交流会実施者はどのような人が適当でしょうか。目的に応じて、参加者を決めていきます。

### ④内容を考える

ニーズや目的に応じて、何を行うか具体的に考えてみましょう。内容が決まったら、場所や必要な費用、通訳の有無など関連する情報が具体的に become でしょう。そして、開催日までの準備期間に何をするか計画を立てることもポイントです。

### ⑤ネットワークを活用し、周知を行っていく

準備にかかる時間や、参加定員数にもよりますが、今回の事例を見ると2か月～1か月前には募集を始めるところが多いようです。また周知方法は、チラシなどの媒体だけでなく、SNS や口コミなどが有効なツールであることもわかりました。参加者が利用するツールなどについても、ニーズや様子を探る際に聞いてみるといいでしょう。

### ⑥交流会にも新しい様式が求められる

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、交流会の実施についても様々な対応が求めら

れる1年となりました。交流会中にマスクを着用しあまり大きな声を出さないようにしたり（千葉県外国人介護人材支援センター）、移動中に利用するバスの乗車率を50%以下にしたり（北海道国際交流・協力総合センター）、また、集合形式からオンライン方式に切り替えて行った団体もありました（とよなか国際交流協会）。

今後は交流会の実施方法にも『新しい様式』が求められるでしょう。集合形式の交流会であれば新型コロナウイルス感染症対策等が必要となり、オンライン方式であれば、実施方法に工夫や配慮が必要になってくると考えられます。実施ツール（方法）を決めたのちに、それに合わせて行う内容を検討していくことも可能でしょう。様々な可能性を考えていくようにしましょう。

### ⑦協力関係を築いていく

「こんな交流会をやりたい」と素晴らしいアイデアを思いついても、1から行うとなると戸惑いが生じることもあるでしょう。また、進め方について悩むこともあと思います。そういう時も、身近な地域の国際交流団体などにコンタクトを取り、相談してみるといいと思います。あなたがやろうとする交流会と全く同じ交流会はないかもしれませんが、その団体が行っている交流会と共通する点があれば協力を仰げる可能性もあります。協力関係は長い時間をかけて育み築いていくものです。あなた自身もいろいろな交流会に参加し、様々な人脈を築いていくことが大事だと言えます。

### ⑧外国人のエンパワメントを意識する

今回取り上げた事例の中には、外国人が交流会のコンテンツを担い、主体となって取り組んだ事例もありました。（宮城県国際化協会、しまね国際センター）外国人が「この地域の一住民である」という意識を持つには、このような主体的にかかわる場を創っていくことも大事です。一方で、地域の日本人住民にとっても地域在住の外国人を知る機会となります。地域に居場所があり、互いに知り合う機会があることにより、外国人の地域定住にも繋がっていくと考えられます。日本人は支援者であり、外国人は非支援者であるという見方ではなく、ともにその地域で生きる一住民として、外国人のエンパワメントを意識し交流会を創っていくことは、多文化共生社会へ進む日本社会の大事な一面と言えるでしょう。

これから皆さんが交流会の実施を考えるときにぜひ上の8つを参考してみてください。できることから始めてみて、ぜひ交流を深めていきましょう。



---

## 人と人の絆を深める 交流会の手引き

2020年3月 第1版 第1刷

公益社団法人 国際厚生事業団 外国人介護人材支援部  
〒104-0061 東京都中央区銀座7丁目17-14 松岡銀七ビル3階  
TEL: 03-6206-1262 / FAX: 03-6206-1165  
URL: <https://jicwels.or.jp/fcw/>

「人と人の絆を深める 交流会の手引き」は、厚生労働省の「令和2年度外国人介護人材相談支援事業」の実施要領に基づき事業の一環として作成されたものです。

無断転載複写を禁じます。

---



